

巻頭言	時代の潮流 新たな旅立ち・新たな挑戦	高橋 伸治 平野 泰宏	4 5
特集 1	統合報告書2021 千葉商科大学の価値を伝える統合報告書の発行	柏木 暢子 小林 博子	6
特集 2	第2期中期経営計画進捗報告 その③ 学生支援と環境整備領域 ダイバーシティ推進について Empowering Young People: My Experience of Diversity and Inclusion ダイバーシティウィーク2021 シンポジウムでの学生発表	今井 重男 サエホギギキート	17 20
学園より	新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する本学の取り組み ～2021年度秋学期～	江原 文智	27
学生活動紹介	瑞穂祭実行委員会の活動	中村 和喜	33
ゼミ紹介	「読み」「書く」力を蓄え、実践すること	権 永詞	34
CUCCレポート	■ ニュース・イベント 公認会計士・税理士育成強化プログラムを開設／橋本隆子副学長・商経学部教授 JNTOのMICREAンバスターに就任／ほか	高橋 百合子	35
	■ 国際センターニュース 創立100周年に向けて進む大学の国際化	川 瀬 功	43
	■ キャリア支援センターニュース Catch the Future through A Turning point		47
	■ 地域連携推進センターニュース 2022年度CUC市民活動サポートプログラム(履修証明プログラム)の ご案内／災害危機管理講座開催の報告／ほか		51
	■ The University DINING レポート		54

随筆	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ライブラリーニュース</li> <li>■ 「第6回書評コンテスト」表彰式開催</li> <li>■ SONEから読者の皆さまへ</li> <li>■ 日本のエネルギー使用現状と千里の行も一歩より起こる</li> <li>■ ことつで始める冬の省エネ生活</li> <li>■ 文化団体・体育会所属各部等の活動状況</li> <li>■ 占ってもいいですか？</li> <li>■ 国を愛する心</li> </ul>	<p>広江 章子</p> <p>グエントワイ</p>	67 66 64 63 62
教育後援会活動報告	<p>教育後援会活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保護者寄稿</li> <li>■ 夢を叶えるために</li> </ul>	西園 準子	69 73
保護者会開催報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CUC保護者会オンライン開催について</li> </ul>		74
活躍する卒業生	<p>夢はNPB傘下の女子プロ野球球団誕生―女子野球神社創建―</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本部からの報告</li> <li>■ 支部からの報告</li> <li>■ その他特定団体からの報告</li> </ul>	濱本 光治	76
同窓会活動	<p>卒業生のお宿・お店紹介「まるやブルワリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 卒業生のお宿・お店紹介「まるやブルワリー」</li> </ul>	広報・IT委員会	80
CUC経営者会議	<p>CUC経営者会議ニュース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学生ベンチャー食堂に本店する学生に開業支援金を贈呈</li> <li>■ 「2021年度版会員名簿」を作成</li> </ul>	釘抜 克典	89 88 86 80
著書紹介	<p>「日本の食と農の未来―持続可能な食卓―を考える」</p> <p>著者…小口 広太</p>	小口 広太	95 92 90
▼第52期同窓会維持会費・華甲会費納入者覧	96		
▼同窓会支部事務局一覧	102		
▼編集後記	104		

# 時代の潮流

2021年の漢字は「金」に決まりました。明るい話題として、皆さまの心の中に「東京オリンピック・パリオリンピック」のメダルラッシュが大きな影響を与えていると思います。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた大会でありました。消費社会は表面の情報が大きく流され、裏側の作り手の情報はほとんど伝わりません。裏側にいた人たちは大変なご苦労があったと推察します。しかし、この間に社会は大きく変化しました。この変化を的確につかまなければなりません。

急激なりもートワークの導入で、教育関係も大きく変化しました。千葉商科大学でもりもートアクセスによる授業が実施され、新たな学園環境への模索が始まっています。キャンパスライフの在り方、クラブ活動、学園祭など、今までの対面方式が当たり前だったものが当たり前でなくなっていました。環境は情報格差を生むことも事実です。この問題は学園生活を営むうえで大きなウエイトを占めます。学園のような価値観の違う人たちが集まる場所には「理念」が必要です。ですから、理念のも

## 高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭52商)



とに、情報格差を生まない学園創りをお願いいたします。私たち同窓会は、母校のための同窓会であり、会員皆さまの同窓会であり続けなければならないことは自明の理であります。そして、母校の前進と歩みを合わせて本会も歩み進展していかなければなりません。私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織及び会員の発展・充実並びに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。これからの同窓会活動を未来に向けて発展させてくれるのは新たな環境に順応した若い力であると思っています。

これからの学校経営は多くの難題を抱えて、その舵取りは想像を絶するものになるかもしれません。その中で、千葉商科大学はしっかりと理念のもとに着実な経営戦略を掲げて、前進を続けています。新たなコミュニティ創りは、今までは違う感覚が必要です。「行動」だけでなく「考え方」も何もしなければ、贅肉がついてメタボになってしまいます。行動も考え方も日々新たに、同窓会も卒業生と一体となって支えて参りたいと思っています。

# 夢はNPB傘下の 女子プロ野球球団誕生 —女子野球神社創建—

## 濱本光治

平成国際大学非常勤職員  
全日本女子野球連盟 副会長  
全国高等学校女子硬式野球連盟 代表理事  
全国大学女子硬式野球連盟 理事長  
昭和53年 商経学部商学科卒業

約半世紀近く前に、今は無き商大の日本傳拳法道部の門を自ら叩き、人としての正しい生き方、全国大会連続優勝に向けての猛練習、毎晩のように若かりし青春の悩みを語り合ったかけがいのない友との出逢い、さらに素晴らしい先輩、OBの方々、顧問の故大崎教授のご指導を賜り、この時の学んだことがその後の私の人生に大き

な影響を与え現在に至ったと思います。

私は昭和53年に卒業後、埼玉県の学校法人佐藤栄学園に奉職し、英語の教師の傍ら埼玉栄高校男子野球部コーチ、そして昭和57年開校と同時に花咲徳栄高校の男子野球部の初代監督、続いて同校空手道部監督、同校女子硬式野球部監督、そして縁あって現在は平成国際大学女子



硬式野球部監督に就任して15年が経っています。

ここで、簡単に女子硬式野球について語りたいと思います。

27年前の1995年東京都福生市において日本初の女子硬式野球大会「日中対抗女子中学高校親善大会」開催。2年後の1997年、「第1回全国高校女子硬式野球大会」が同じく東京都福生市で生まれました。

昨夏の第25回の決勝戦は甲子園で初めて行われた歴史的な大会となりました。この四半世紀の高校の大会が、その後の女子硬式野球の普及・発展の核となり、クラブチーム、大学チーム、企業チーム等ができ、現在百数チームがプレーしています。

この核となった黎明期を築いたのが、初代女子高野連事務局長の四津浩平氏よつこうへいであります。黎明期におけるほとんどの大会運営費は四津氏が家二軒分の私財を投げ打って捻出して大会を成功裡に導いておりました。

しかし、創設から10年後に癌を患い逝去されました。私は四津氏が亡くなる1か月前に、病床のベッドで四津氏の遺言として女子硬式野球の本の執筆を依頼されました。四津氏没後12年にして当時四津氏の偉業を消し去り、

真実の歴史をね

じ曲げようとす

る風潮が漂って

いたためやっと

の思いで、自費

出版ですが「サ

クラ咲ク」、「サ

クラ咲ク2」と

題した女子硬式

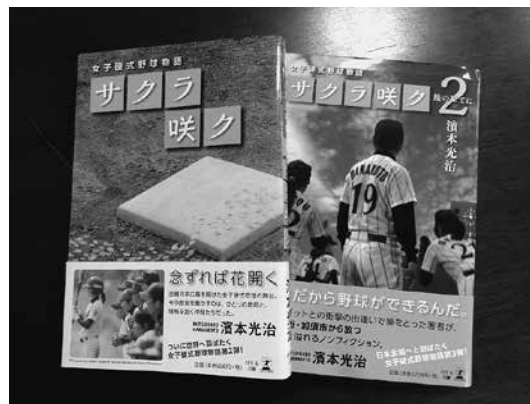
野球の歴史等を

記した著書を2

冊上梓させて頂

きました。

この本には先般の女子野球の歴史を明治時代から現在までを詳細に述べさせて頂きました。そして本年令和4年には引き続き、高校の女子硬式野球の夏の大会決勝戦は「甲子園」で、今春の選抜大会決勝戦は「東京ドーム」で初めて開催される予定です。また、昨年末の「女子高校野球選抜強化プログラム2021」では商大サーブス創造学部の中村聡宏あきひろ准教授が代表選手23名にスポーツマン





シップについての講義をなされ、選手達はスポーツの正しいあり方を学んでいました。さらに翌日、日米球界のレジェンド、イチロー氏と女子高生チームが真剣勝負の試合を行い国内外にニュースとなりました。やっと女子硬式野球に光が射してきた感じがあります。

私の夢としては、2021年の12月に読売ジャイアンツが女子チームを立ち上げました。

前年は西武ライオンズ、阪神タイガースが女子チームを立ち上げ、これで3チームの硬式女子野球が誕生しましたが、この時点ではまだアマチュアのクラブチームです。

最終的にはNPB傘下の女子プロ

野球球団が誕生することが私の夢です。これが叶った時、女子プロを頂点とする女子硬式野球発展の一貫した体制が構築され、小さな子どもたちには、将来の大きな夢に繋がると確信しております。

最後に、一昨年令和2年12月に全日本女子野球連盟と私が在住する埼玉県加須市が「女子野球タウン」第1号の連携協定を締結し、女子野球の更なる発展・普及に動き出しました。

私はこれを機に加須市は埼玉県一の米所であったため、地域の農業の活性化や地域産業の貢献を図りつつ女子野球の発展につなげたいと思い、地元である平成国際大学女子硬式野球部員、蔵元さん、酒米生産者さん達と企画し、日本酒造りに挑戦することになりました。

この日本酒造りのコンセプトは、女子野球タウン第1号日本酒プロジェクトから、酒造りを通して、大自然や人との絆を深め、女子野球の輪を広げる。また名称は「いつくしみの祈り」「明軽(めいけい) 女子野球タウンの埼玉県加須市で、女神である地元大学女子硬式野球部員たちが、企画、田植え、稲刈り、仕込み、宣伝等をし、「オール加須」の蔵元、生産者、市と協力して、人の心が明

るく、軽く、温かく、熱く、元気に幸せになって欲しいという願いを込めて造られたお酒です。酒米は生産者さんの執念で、数年の失敗を重ねた末の酒米最高峰の加須産「山田錦」で、これを100%使った純米大吟醸酒です。本年3月に完成予定です。

このお酒の売り上げの一部は、将来女子硬式野球の聖地である埼玉県加須市の地に、女子野球関係者の幸せを祈念し、女子野球選手達が、野球ができる幸せや素敵な仲間に出逢えたことに感謝し、試合においての必勝祈願ではなく、自分の持てる力が十二分に発揮できることを祈ることのできる通称「女子野球神社」を将来創建する資金に充てたいと思っています。

残りの人生、商大で培った「世のため、人のために生きる」ということを最後まで信念を持って実践していきたいと思っております。今後とも皆様の応援よろしくお願ひ致します。

本コーナーでは、第1回にご登壇のCUC経営者会議現会長安藤昭氏（当時、富士屋ホテル株式会社代表取締役社長：第7号/2011年10月刊行）を皮切りに、経済界、政界、金融業界、起業家、ミュージシャン、武道家から、36号にご寄稿くださった警視庁捜査第一課長の福山隆夫氏、前37号に登場願った「東京2020オリンピック」ボッチャ競技銀メダリストの高橋和樹選手、「東京2020オリンピック」体操競技審判員の高橋孝徳氏まで、実社会で活躍する多士済々な同窓生の皆さまの本学での学生生活や今に至るまでの貴重な経験談を披露しております。